



第195号
昭和42年11月20日
発行所
宮崎県東臼杵郡
東郷村役場

牧水記念館の落成と開館

文化の日に待望の牧水記念館の落成式と開館式が行なわれました。一片の雲もない秋空に尾鈴の峯も今日のよき日を祝うかのように聳え、農家の庭先に咲きはこる菊の花もよろこびをたぐえていた。

はるばる東京をはじめ京都、大阪、北九州、福岡、大分、鹿児島などから牧水先生にゆかりのある方や私淑する方々など七十余名もお出になり、村内は勿論県内合せて三百名を超える来賓の臨席を得て式典が挙げられました。

祝辞は文部大臣、県知事、衆参議員代表平島敏夫氏、県教育長、県市町村代表、日本文芸家協会丹羽文雄氏、日本短歌クラブ代表長谷川銀作氏、県観光協会長の岩切省太郎氏からいたゞき、牧水先生、御長男の旅人さんが遺族代表として感極まる謝辞があり、坪谷中学校女生徒の「牧水の歌」の斉唱で盛会裡に式が閉じられました。村長代表は祝辞の中で割愛させていただきます。その他の方々の祝辞と黒木協賛会長の式辞を掲載いたしました。村民の皆さまよろこびを願つことといたします。

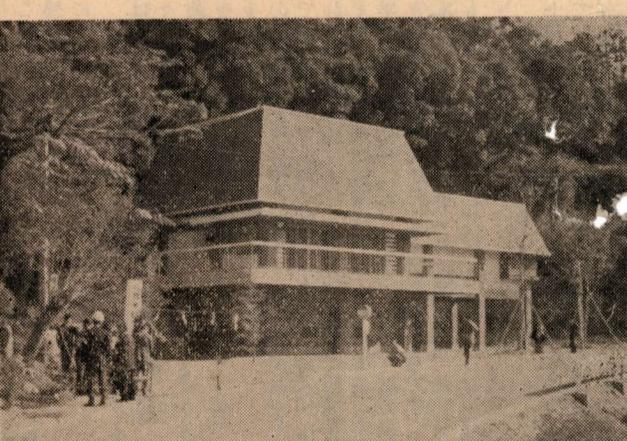
式辞 協賛会長 黒木松美

菊香の今日よき日に文部大臣代理官殿をはじめ、県内外多数の来賓の方々、御臨場を辱ういたしました。茲に牧水記念館の落成並びに開館の式典を挙行いたしますことは私の無上の光栄であり感激の極みであります。

若山牧水先生は明治十八年八月二十四日この地に生をうけられ、美しい坪谷の自然のふところにお生まれ、詩魂がはぐくまれ、のち県立延岡中学校より早稲田大学に学び、明治、大正昭和三代の歌壇の巨匠としてその名は我が国文学史上に輝くや、その不朽の名歌の数々は国民に真なるもの、善なるもの、美なるもの、聖なるものを培かい日々のなりわいに、やすら

に県御当局をはじめ県下の各市町村、各官公庁、各学校、会社、事業主、その他東京、延岡、日向、宮崎などに在任の牧水先生或は本村にゆかりのある方々の献身的な御協力を本村並びに全村民の協賛をいただき、募金も大体順調に進み、ここに見事な記念館の完工並びに生家の完全な補修工事の完成を見、牧水先生の作品、遺墨、遺品、その他の資料の保存に万全を期することが出来、又文化の進展にもいくらか寄与し

「かれ」と自信をもって伝唱出来る日の近きにあることを期待して更に努力をいたしたい所存であります。現在館内に展示いたしてあります資料は牧水先生の御遺族、愛弟子、その他宮崎、延岡、郷土の方々の御協力によるものでありまして、只々感謝の他はありませぬ。今後この貴重な品々を牧水先生を研究される方々の重要な資料ばかりでなく先生の御遺業を偲ぶよすがとなるであろうことを確信してまいります。私はこの牧水記念館が文



落成した記念館

その姿を現実に見て何となく頭影の方法をお考えになつて本日の立派な記念館の落成式までなす遂げられたご努力に感謝申し上げます。が、今後とも館の運営にも工夫をこらし、牧水の名に恥じない資料館にしていただくことを期待してやみません。

祝辞 文部大臣 釘木享弘
白玉樓中の人となられまして、その後四十年を経過いたしました今日、なおその遺徳を慕ひ、その珠玉のかずかずを愛誦する人々があつたと断言することは、すなわち君が卓越した歌人であることを証するものと思ひます。

宮崎県議会議長 川越石男
しかるところ先年来この志に燃えられる協賛会の方々のご発議により生家の補修と記念館の建設が計画され今日までいろいろとお骨折りを願つてまいりました。御長男の遺族代表として、皆様の御力により、本日この文化の日に晴れの開館式を迎えられ先生にゆかりの深い品々を永久に保存展示されるに至りましたこと、心から祝意を表します。

長谷川銀作
牧水は白秋や茂吉とともに最も広く知られた歌聖であります。いづれもまだ未開拓の部分が残されております。このうち、皆様の御力により本日牧水記念館の開館式をあげられるに至りましたこと、心から祝意を表します。

構することを計画したのでしたが、東京方面や県内各界の先輩の方からも「宮崎県の生んだ日本の歌人」にふさわしい施設設備をこの機会に行なうことがよいのではないかと、この強い御進言御指導をいただきました。この偉大なる歌人と郷土を同じくする村びとたちは昭和二十二年十一月に「ふるさと」の歌碑を建て、村もまた昭和二十六年九月牧水顕彰会を組織いたしました。水記念館建設協賛会」を組織し、宮崎県知事さん、名譽会長にお願いし、総費一千五百万円を募金によることとして、昭和四十二年二月にこの大事業に着手いたしました。次第であります。

宮崎県知事 黒木博
皆さん、おめでとうございませぬ。今日は幸いにも「文化の日」であります。全国民が多様な「文化の日」にちなんで行事を開催しております。この東郷村における牧水記念館の落成式は、意義深い行事は最高のものでないかと思つております。

黒木博
うとする動きはすでに昭和二十六年、この地に牧水顕彰会が発足したところからの念願であったと思ひます。最初は牧水生家の保存、家の修理のことから事業を企画され、併せて記念館の建設を、併せて記念館の建設を、有志各位の協力となり本日ここに記念館の落成式をみましましたことは、誠に同慶の限りでございます。

丹羽文雄
旅人として西行や芭蕉と並べられ、珠玉のような数々の名歌によって最も広く敬愛されている歌人牧水が、日本文化の発祥の地日向の、風光明媚な深谷の村に生まれたことは、決して偶然ではないと思われませぬ。

爾来一年十月完成の道は坦々たるものではなく、幾度か苦悩にあえぎました。が、その都度心の鐘をうちながら、微力ながら努力を続けてまいりました。幸い

得ることが出来て先生のみ魂に込めることのできることは、まことに欣快の至りであり、先生と共に、先生のおふるさきに住むわれ等東郷村民は今吾等に課せられた名譽ある文化事業を果したるよろこびが渾然と胸に湧き無限の歎息に似たります。

黒木博
牧水記念館は牧水顕彰にふさわしい設計でなされ、自然の美しさにとけこんでいて格調高いものが出来上りました。心からお祝い申し上げます。しかも牧水生家の隣りに建てられたことにほんとうに意義深いものを感じます。

黒木博
私共は先生の偉大なるご業績とともに先生を育てたこの郷土の姿をいつまでも残し伝えたいと痛感いたしましたところでありました。方々のご好意に対し、

しかし静かに記念館の使命を思い、今後に残された幾多の事業があると思われ、引きつづきこれを整備しつづき、牧水を語るな

祝辞 文部大臣 釘木享弘
白玉樓中の人となられまして、その後四十年を経過いたしました今日、なおその遺徳を慕ひ、その珠玉のかずかずを愛誦する人々があつたと断言することは、すなわち君が卓越した歌人であることを証するものと思ひます。

宮崎県議会議長 川越石男
しかるところ先年来この志に燃えられる協賛会の方々のご発議により生家の補修と記念館の建設が計画され今日までいろいろとお骨折りを願つてまいりました。御長男の遺族代表として、皆様の御力により、本日この文化の日に晴れの開館式を迎えられ先生にゆかりの深い品々を永久に保存展示されるに至りましたこと、心から祝意を表します。

長谷川銀作
牧水は白秋や茂吉とともに最も広く知られた歌聖であります。いづれもまだ未開拓の部分が残されております。このうち、皆様の御力により本日牧水記念館の開館式をあげられるに至りましたこと、心から祝意を表します。



落成式寸景